

スポーツリハビリ

部活動からプロまで、幅広く選手をバックアップしています！

さらに！
専門性を
追求して

総合病院 PT 見供 翔

東京都立保健学大学理学療法学科 卒業
首都大学東京大学院修士課程終了
首都大学東京大学院博士課程
人間健康科学研究科理学療法科学域 在学中

社会人バスケットボールチームメディカルスタッフ
早稲田大学ラグビー部メディカルスタッフ

学生(小・中・高・大)から社会人、プロまで幅広くスポーツリハビリテーションを展開しています。対象はバスケットボールやラグビー、野球、サッカーなど様々です。

前十字靭帯損傷、半月板損傷、内反捻挫などの下肢疾患や肩関節脱臼、腱板損傷、投球障害肩といった上肢疾患と様々な疾患に対して、スポーツ復帰および再発予防を目的にリハビリを実施しています。



特別支援学校の外部専門家として

障がいをもつ子どもたちのより良い生活のために

リハビリテーション病院
PT 庄本 直子

日本リハビリテーション専門学校 卒業



「自立活動」という授業で、小学生から高校生までの様々な障がいをもつ子どもたちと関わっています。子どもたちがよりよい学校生活、例えば良い姿勢で授業を受けられるように、給食を食べやすいようにといった目標に向け、必要な運動やストレッチ、座位保持装置など機器の調整等を担任の先生と相談しながら行っています。

日々子どもたちに関わる先生が学校生活の中に活かすことで、子ども達の身体は変化します。障がいの程度は様々ですが、一人ひとりの持っている能力に引き合い可能性を見出すため、子どもたちや先生方とのコミュニケーションを大切に取り組んでいます。

がんのリハビリテーション

患者さんのQOL向上を目指して

総合病院

OT 夜久 真弓

横浜リハビリテーション専門学校 卒業



がんのリハビリテーションは、今年から新たな取り組みとして始まりました。がんのステージを問わず、様々ながん患者さんを対象として、術後・化学療法後の能力向上だけでなく、精神的なケアや病気に応じた患者さんのQOL向上を目指し、日々リハビリを行っています。

リハビリを行うと機能が回復するというイメージがありますが、がんリハビリでは必ずしも回復が望める訳ではありません。患者さんの希望や、病気の進行に合わせてリハビリの提供が必要です。難しく感じる事も多くありますが、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

日本理学療法士協会認定理学療法士(脳卒中)

急性期、回復期で経験し、現在は外来リハビリで退院後の患者さんを支援しています！

リハビリテーション病院
PT 波多野 陽子

日本リハビリテーション専門学校 卒業

リハビリテーション病院に入院している患者さんの約4割が脳血管疾患です。日々業務を行う中で、より脳血管疾患について知識・技術を高めていきたいと思い、資格をとりました。

今後はこの資格を活かし、脳血管疾患患者さんの治療を中心に関わっていきたくと思っています。臨床だけでなく、研究にも力を入れていきたいと考えています。



心臓リハビリテーション指導士

適切な運動処方などで心臓病の再発を予防！
運動や生活への不安を解消するお手伝い

総合病院

PT 石毛 崇

東都リハビリテーション学院 卒業

入職後、合併症で頻りに登場する心不全などの循環器疾患に興味を持つようになり、資格取得を目指すようになりました。当院では心筋梗塞や心不全患者さんのリハビリを担当でき、日常生活や仕事復帰に向けたプログラムを医師や看護師とチームで作り上げていくことにやりがいを感じています。近年リハビリの効果が非常に注目されている分野で、再発や再入院を減らすと言われていて、また心肺運動負荷試験をリハビリスタッフが実施しているため、とても勉強になります。心臓リハビリテーション学会や、多施設との共同研究などにも積極的に参加しています。



認知症初期集中支援チーム

地域でその人らしく生活することを支援しています！

訪問リハビリテーション部門

OT 伊橋 瑞恵

横浜リハビリテーション専門学校 卒業



認知症初期集中支援とは、認知症になっても住み慣れた生活環境で質の高い生活が送れるよう、医療と介護が連携しその環境を作るための初期の関わりを集中的に支援するために国の施策において発足したものです。

普段は訪問リハビリ部門に所属し、地域で生活する方々が、その人らしくその家庭らしく生き活きと生活が送れるよう支援していますが、その経験や専門性を活かして地域で働くことへやりがいを感じています。

3学会合同呼吸療法認定士

知識・技術を生かして一人でも多くの患者様の呼吸困難感が改善し、ADLアップを目指したいと考えています！

総合病院

PT 幸田 佳苗

専門学校金沢リハビリテーションアカデミー 卒業



Dr、Ns、Ce、PTで構成された呼吸サポートチーム(RST)の一員として人工呼吸器管理の方の回診を行っています。RST回診で呼吸器からの離脱に向けて、多職種からサポートすることができるため安全で質の高いリハビリを提供できるところが魅力だと感じています。またRSTによる勉強会も開催しており、チーム以外のスタッフの知識・技術の向上に向けて取り組んでいます。

回復期セラピストマネージャー

患者さんの事から部署、病棟運営まで、回復期の専門知識をもってあらゆる事に関わります

リハビリテーション病院

PT 中井 康司

茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 卒業



リハビリ病院で勤務して12年目になります。病棟や外来の配属、急性期での研修を経て、患者さんの在宅復帰に向けたリハビリだけでなく、回復期病棟のあり方や他職種協働など、回復期の幅広い専門性と知識を学び直したいと考え、セラマネの認定をとりました。地域包括ケアが掲げられ、回復期病棟は地域に根ざした取り組みをより具体的に進めたいと考えています。患者さんのセラピストとしての治療はもちろんのこと、退院後の生活を見据えた支援が病院全体でチームとなって行えるよう、活動していきたいと考えています。

病院の仕事 + α 大学院!

リハビリテーション病院
OT 今 法子

北海道大学 卒業
京都大学大学院 医学研究科 在籍中

ライフ
スタイルも
いろいろ!



臨床で感じた疑問を研究に活かしたいと思い、働きながら大学院に通うことにしました。病院と研究との両立は、どちらか一方では気付けな発見も数多くあるため、毎日とても勉強になっています。迷惑をかけてしまうこともありますが、周囲の方々に支えられながら、楽しく過ごしています！

病院の中でも一年に一度、KRA(Kawakita Rehabilitation Academy)という研究発表の場があり、各々が興味のあるテーマについて発表し自己研鑽に励んでいます。臨床も研究もやりたいという方、一緒に働いてみませんか？

病院の仕事 + α 子育て!

家庭生活との両立 子育てでの経験を次のリハビリへ

リハビリテーション病院

OT 岩佐 友里

昭和大学 卒業



1年半ほどの産休・育休を取得後に仕事復帰をしました。子どもが3才になるまでの間は1時間の時間短縮勤務を利用し、急な体調不良や保育園からの呼び出し時には、その場でシフトの調整してもらいながら勤務しています。

当初、子育てをしながらの仕事は思うように動けず、もどかしく思っていました。しかし、徐々に自分自身の視野が広がり、以前とは違った角度から患者さんを見ることができるようになっていると感じることも増えてきました。今では、私生活での経験を今後のリハビリにいかしていけたらと、毎日の生活を大切にすることができています。

治療的乗馬

財団リハビリテーション担当部長

PT 窪田 幸生

都立医療技術短期大学 卒業



長野県茅野市にある当財団の研修施設NKファーム、そこにある屋内馬場を利用して、地元の施設に通う、障がいを持たれたお子さんたちと馬とのふれあいを通した機能訓練(治療的乗馬)の活動を始めています。「ウマ」、「障がいを持たれたお子さん」に関心がある方は、是非この活動に参加されてみてはいかがでしょうか?リハビリセラピストとしての視野・幅が広がりますよ!

院内健康教室・ 杉並区小学校授業・etc.

総合病院

PT 太田 裕也

茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 卒業



河北医療財団は地域の中核病院として、入院された方や外来診察に来られた方だけでなく、杉並区に住む方々の健康増進、疾病予防にも積極的に取り組んでいます。リハビリ科でも、健康教室や介護予防教室などを開催し、運動指導や介護指導などに取り組んでいます。また近隣の小学校にてユニバーサルデザインに関する授業のお手伝いなどもさせて頂いています。

これからも病気になられた方々のリハビリだけでなく、地域の方々の健康増進、疾病予防にも積極的に関わっていきたくと思っています。

病院の仕事 + α 作業療法士会の仕事!

東京都作業療法士協会 教育部員

リハビリテーション病院
OT 館岡 周平

北海道リハビリテーション大学 卒業
白鳥大学大学院 リハビリテーション学研究所 在籍中



都士会教育部員として、研修会の企画・運営などを行っています。大学院や業務との両立は大変なこともあります。講師の方と直接話す機会も多く、OTとしてのモチベーションUPにもなっています。

病院の仕事 + α 東京マラソンチャリティーランナー!

河北では福利厚生が充実。クラブ活動も多々あり、プライベート時間の充実や他職種スタッフとも仲良くなれます。

総合病院 PT 小口 佳奈

国際医療福祉大学 卒業

当院では中枢病棟を担当しています。ご家族やご本人のHOPEに合わせて、自分のできる理学療法を提供できるよう、日々取り組んでいます。また、今年は河北医療財団のチャリティーランナーに当選しました。科内スタッフの協力、支援を受けながら練習に取り組んでいます。本番で完走できる様頑張ります。



学会発表(海外)

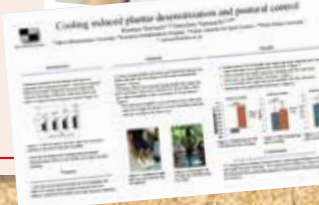
アメリカ、ヨーロッパでの学会発表で幅広い意見をもらってきました。

院外活動にも積極的に取り組んでいます!

リハビリテーション病院 PT 堀内 健太郎

茨城県立医療 卒業
首都大学東京大学院 ヘルスポモーション学域修士課程終了
2013年 ECS5発表
2015年 AASP発表

大学院の修士課程にて、立位姿勢における視覚機能、足部機能の重要性について研究し、ヨーロッパ、アメリカでの国際学会で発表してきました。ポスター発表、口述発表、質疑応答、レセプションなど、全てが英語ですが研究への熱意や面白味は言語を超えて伝えられ、大変よい経験ができました。また、スポーツ科学・心理学の学会では、スポーツ、心理学、医療、工学など様々な分野の研究者が、世界各国から集まり、様々な角度から意見し合うことができました。基礎研究による知識の集積は、臨床応用への踏み台となり今後活かせると考えています。



地域連携会・看取り・etc.

老健シーダ・ワーク OT 佐々木 梨乃

関東リハビリテーション専門学校 卒業

地域包括ケアを実施していく中で、実際に顔を合わせ利用者さんやケアマネージャー、ご家族が何を求め、どう協力していくかが大事だと思っています。シーダワークでは、地域のニーズに出来る限り応えられる様に、利用者さんの在宅ケアマネージャーの事業所や近隣の病院、施設の方を年に1度お招きし「地域連携会」を相談員が中心となり実施しています。

連携会の中でリハビリの希望を実際にお伺いします。地域資源を活用しながら、住み慣れた地域で生活が維持できるように、1人ひとりに合ったプログラム提供をチームで検討しています。

最近では高齢の方も多く、最終的にはこのシーダで最期を迎えたい、迎えさせたいという利用者やご家族も増えてきました。「看取り」に対してそれぞれの職種が出来る事を考えるように、看護師、介護士、ケアマネージャーと共にワーキンググループを作り施設内でどの様に取り組んでいくかを考えています。看取る瞬間までセラピストが出来る事は何かを考えていきます。

